

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4070700689		
法人名	特定非営利活動法人 グループホームやまびこ		
事業所名	グループホーム やまびこ		
所在地 (電話番号)	北九州市八幡西区上津役東3丁目10番16号 (電話) 093 - 614 - 2910		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年9月28日	評価確定日	平成21年11月18日

【情報提供票より】(平成21年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11年11月15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 7 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 8 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造かわら・亜鉛メッキ鋼版ぶき平屋建 造り 1 階建て
------	--------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	2,800 ~ 3,100 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 150,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	550 円	昼食	550 円
	夕食	550 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低 78 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三浦整形外科内科クリニック・有松歯科医院・黒田クリニック・東筑病院
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな閑静な住宅地に、民家を改造した「グループホームやまびこ」はある。介護保険開始以前からのグループホーム運営の貴重な実績と、創立者の「ホームが地域の社会資源となる」という信念のもと、地域に根付いた充実した取り組みが行なわれている。日常的に訪れるボランティアの方々との交流や、魚市場より新鮮な魚を仕入れ毎週開催されている市場など、ふれあう機会が多い。また災害時には地域の方々が実践的な役割を担う等、協働関係が構築されている。地域における福祉拠点としての役割を担いながら、入居者の方々の日々の暮らしがより豊かなものとなるよう、一人ひとりの個別の「生き方」の支援に努めている事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の指摘事項の応急処置について、かかりつけ医による研修に実施等の取り組みがある。自己評価作成には、客観的な視点から課題を明確にしており、評価の機会を活かしてサービスの向上に活かしていこうとする真摯な姿勢が伝わる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員間で話しあいながら取り組み、評価の意義を理解し、また日々のケアの確認や振り返る機会となっている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、家族・地域住民(町内会長・民生委員・ボランティア等)・有識者・地域包括支援センター等の多彩なメンバー構成により、2ヶ月に1回定期開催されている。ホームの状況報告を行い、意見交換や助言を得ている。意見や助言には速やかに対応し、次回の推進会議で報告するなど、運営に反映させている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	玄関に苦情箱を設置しており、毎月「ご意見カード」を送付し、意見の表出に努めている。意見や要望があった場合にはミーティング等において話し合い、運営に反映させるよう努めている。定期的な家族会が開催されており、その中でも職員との関係づくりが行なわれている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、地域の行事(祭り・作品展・演奏会等)や活動(町内清掃等)に参加している。ボランティアの来訪も多く、また地域への情報発信等により、地域の一員として根付いた活動がある。毎週木曜日は、魚市場から新鮮な魚を仕入れ、地域の方々にも提供している。散歩の途中でお茶をごちそうになったり、お花をいただくこともあり、地域の方々との自然なふれあひも多い。

2. 評価結果(詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域密着型サービスの意義を踏まえた「やまびこの誓い」を掲げている。入居者の方々が地域の中で暮らし続けることを支援し、またグループホームが地域の社会資源となるように努めることが謳われている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	毎朝神棚を拝むと共に、入居者の方々と理念を唱和している。ミーティング等では理念を基に日々のケアを振り返り、理念の共有・実践に努めている。いつまでも「頭を垂れる稲穂のごとく」をモットーとしている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	自治会に加入しており、地域の行事(祭り・作品展・演奏会等)や活動(町内清掃等)に参加している。ボランティアの来訪も多く、また地域への情報発信等により、地域の一員として根付いた活動がある。毎週木曜日は、魚市場から新鮮な魚を仕入れ、地域の方々にも提供している。		散歩の途中でお茶をごちそうになったり、お花をいただくこともあり、地域の方々との自然なふれあいも多い。
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価作成にあたり、全職員で話し合いながら取り組んでいる。評価の機会を活用して、日々のケアを振り返りながらその意義・目的を共有している。前回評価での指摘事項についても、具体的に改善に取り組んでいる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は、家族・地域住民(町内会長・民生委員・ボランティア等)・有識者・地域包括支援センター等の多彩なメンバー構成により、2ヶ月に1回定期開催されている。ホームの状況報告を行い、意見交換や助言を得ている。意見や助言には速やかに対応し、次回の推進会議で報告するなど、運営に反映させている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

## グループホーム やまびこ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	自治体主催等の研修の講師を引き受けたり、実習生の受け入れを行っており、行政との協働が図られている。またホームの行事にも行政関係者を招待しており、積極的に関係づくりに取り組んでいる。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての資料を準備し、必要となった場合に活用できるよう、職員・家族への周知を図っている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月担当職員の手書きによる「日常生活近況報告書」を作成し、日々の暮らしの状況や健康状態等について報告している。職員の異動については運営推進会議や家族来訪時に報告している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	玄関に苦情箱を設置しており、毎月「ご意見カード」を送付し、意見の表出に努めている。意見や要望があった場合にはミーティング等において話し合い、運営に反映させるよう努めている。定期的な家族会が開催されており、その中でも職員との関係づくりが行なわれている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	馴染みの職員による支援を重要視しており、やむを得ず職員の異動がある場合には、各事業所の主任以上の役職会議において、入居者の方々への影響への配慮と職員の意欲低下への配慮について、十分に話し合いが行なわれている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、年齢や性別等を理由として対象から排除していない。採用後は運営者と年1回、個別に意見交換する機会を設けており、働きやすい環境づくりに積極的に取り組んでいる。職員のスキルアップの機会を積極的に支援している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

## グループホーム やまびこ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	「認知症の人の望ましい接し方及び暮らし」についてグループワークを実施し、日々のケアの振り返りを行なっている。入居者の方々のプライドを傷つけないよう、言葉や対応について考える場となっている。毎月行なわれるミーティングにおいて、高齢者虐待防止や身体拘束についての取り組みについて確認し、周知徹底を図っている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	経験や役割に応じて段階的な内部研修を実施し、また外部研修への積極的な参加を促し、職員のスキルアップとともに組織力の強化を図っている。特に新規採用者へは「目配り・気配り」ができる職員となるよう、リーダー職員によるOJTが実施できる体制が整備されている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会に参加し、また法人内のグループホーム「いなほ苑」や宅老所「やまびこ」との交流により、サービスの向上に向けての取り組み実績がある。人事交換研修等の参加・実施により、日々のケアの振り返りの機会として今後も取り組んでいきたいとの意向がある。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居者・家族の方々がホームに望んでいる事や課題等、不安なく過ごせるように情報を早期に収集し、ケアプランを作成している。文章化しスタッフ全員に周知することで、事業所の雰囲気や生活に馴染んでもらえるよう働きかけている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は日々の会話の中で、入居者の方々の言葉をゆっくりと受けとめ、意見に共感したり、自分達の考えを伝えることで信頼関係を築きながら共に過ごしている。生活の知恵など、年長者である入居者の方々から学ぶ事も多い。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

## グループホーム やまびこ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時のアセスメントには、生育歴や生活歴が年代別に丁寧に収集されており、本人の思いや行動の背景にあるものを推察できる。その日、その時の入居者の方々の希望を大切に、家族の協力も得ながら実現できるよう支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月1回のミーティングで入居者の方全員のケアプランについて職員全員で評価と見直しをしている。休日や夜勤時に入居者の方に変化があった場合、情報をもとに日勤帯のスタッフで話し合い速やかに対応している。不在のスタッフへの周知も行い統一したケアが行なえるよう計画を作成している。</p>		<p>計画には入居者本人・家族の希望を明示される事が重要です。詳細なアセスメントと計画が共に書かれているので、その方の長期的で不変な項目と今現在関われば好転する、もしくは悪化を防げる項目に分けられると、行動目標が明確となり、具体的な評価に繋がると考えます。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回は計画の見直しを行っている。状況が変わった場合にはありのままを家族に伝え、ケース会議を持ち臨機応援に新たな計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>運営推進会議等にて入居者の状況報告を行い、入居者の希望を伝え、家族の状況も伺いながら様々な可能性を引き出している。例えば子供の頃過ごした場所や兄弟に会いに行ったり、昔よく行っていたお店に行くなど、家族と話し合いながら取り組んでいる。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族の意向による主治医により、定期的な往診や状況の変化時の適切な対応に努めている。かかりつけ医により、緊急時の対応法等についての研修が実施されている。</p>		

## グループホーム やまびこ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	本人の意思を尊重し、家族・医師・看護職員・介護職員による話し合いを重ね、終末期に向けた取り組みが行われている。		終末期の入居者の方が、みんなの話し声が聞こえる事を希望されると、居間に近い部屋にお連れした経緯もあった。運営推進会議で看取りをされた家族の方に思いをお話ししていただく機会を講じておられた。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	日頃の関わりの中でしてはならない事を守り、人生の先輩として尊重する気持ちを持ち、特に言葉掛けに注意している。トイレのレイアウトに工夫がされており、プライバシーに配慮されている。個人情報も厳重に管理している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者の方のペースに合わせて過ごす事ができるように支援している。臨機応変にドライブの希望や食べ物の希望などに応じている。食事も大勢の中で摂りたくない場合には、ウッドデッキで気分よく食べていただいている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	料理が好きな方と共に野菜を切ったり、味付けをして頂いている。一品でも作り上げることが、本人の自信になったり、食べる事の楽しさを感じて頂いている。流し場が2箇所あり、入居者の方々がそれぞれのペースで、調理準備や食器の洗い物を行なっている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	いつでも入浴が出来るようにし、個々人に合わせて温度調節している。1人ずつ入浴したい人から入っていただくようにし、時間・曜日は決めず希望やペースにあわせている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

## グループホーム やまびこ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	昔から愛読している新聞を個別で取り寄せる・料理を作る・畑仕事・大正琴の演奏等の個々の楽しみ事を継続できるよう支援している。生活リハビリとして毎日の生活の中で、一人ひとりの力が発揮できる場面づくりを支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	日常的に散歩に出掛けており、四季折々の自然を肌で感じる事ができる。個別の外出やドライブ、買い物等にも柔軟に対応している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中、鍵をかけないケアを実践している。見守りの徹底等、安全面に配慮しながらさりげなく寄り添い、自由な暮らしを支援している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回の昼夜を想定した避難訓練を実施している。地域住民の参加・協力を得ており、入居者の方々の誘導・見守りの役割を担ってもらう等、具体的な協力体制が構築されている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食事・水分摂取量を把握し、記録している。個々の嗜好にあわせた飲み物を提供し水分確保に努めている。訪問当日はほとんどの方が完食されていた。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

## グループホーム やまびこ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	台所へとつながっているリビングは、襖や障子が外され広い空間となっており、昔ながらの懐かしい佇まいである。神棚の水をかえたり、散歩の途中で摘まれた季節の花が飾られたり、手づくりの曆に日付を書き込んだり、入居者の方々が主人である空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	木の柱・畳・襖など、昔馴染みの環境が落ち着いた雰囲気を出している。使い慣れた家具や布団、それぞれのライフスタイルにあわせた飾り付けがなされており、その人らしい空間づくりに工夫がなされている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			